
FAIRY TAIL ~ 永遠の光 ~

シルフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FAIRY TAIL ～永遠の光～

【Nコード】

N7321X

【作者名】

シルフ

【あらすじ】

FAIRY TAILの世界に転生した主人公。

イレギュラーな存在の為に世界はどう変化していくのか、しばらくは原作のメンバーは出てきません。

プロローグ（前書き）

プロローグです。

プロローグ

「君には転生をしてもらいたいのだが」

「はぁ・・・」

転生は人類の夢なんだからもつと喜べって？

車にはねられて意識が飛んだ瞬間目の前に現れた青年にそんな事を
トリック
言われた人の反応は大体こうだと思っけど・・・

「私は君たち人間の言うところの神だ。わたしのミスにより君の運命に歪みが生じた為にまだ死ぬはずでなかった君は死んでしまった。だからそのお詫びとして——」

「転生してほしいということですか」

テンプレだ・・・

「まず転生する世界をくじで選択するぞ」

選択性じゃなくてくじ引きなんだ。

何処からともなく現れたくじ引きの箱に手をつ込み、適当に中に入っている紙を一枚だけ取り出す。

その紙に書かれていた世界は——

「『FAIRY TAIL』か」

「それってマガジンの漫画ですよ」

「そうだ。君にはその漫画の平行世界に行ってもらうぞ。平行世界では原作を破壊してもいいし、原作に関わらず生きていつてもいい。それをきめるのは君だからね」

「次に、能力を決めよう。希望する能力を幾つか与えよう」

「不老不死って出来ますか？」

「不老は可能だが、不死は制限がつくぞ」

「どんな制限ですか？」

「毎日5個ずつ命が貯まっていく。その命が尽きれば君は死ぬことになる」

「じゃあそれをお願いします」

「了解。では次の能力は？」

「限界と衰えをなくしてください」

「修行すればするほど強くなり、一度覚えたことは忘れないようにすればいいんだよね？」

「はい。それで次の能力は、その世界にあった才能を下さい」

「では、才能と（おまけとして）それを活かせる環境を用意しておくよ」

「ありがとうございます。じゃあ最後に、その世界で生きていくための知識を下さい」

「これだけでいいのかい？君は欲が無いねえ」

「じゃあ1つだけお願いを・・・原作開始の80年ほど前に転生させてください。修行をしたいので」

「わかったよ。じゃあ2度目の人生を楽しんで来てね」

いきなり、地面？に穴が開き私は落下していく。

「きゃあああああああああ」

のんびりと手を振っている神様の姿が転生前の私の最後の記憶となった。

ブローグ（後書き）

質問・感想等ありましたらご報告ください。

第1話（前書き）

主人公の修行が始まります。

しばらく原作は出てきません。

第1話

「うつ・・・ここは」

目が覚めると、森の中だった。

とりあえず現状確認をしていると、ポケットに手紙が入っていた。

その内容は、

- ・ 今が原作開始の90年ほど前である
- ・ 修行のための場所と相手（神の分身体）を用意しておいた
- ・ 不老不死についてこの世界では迫害されたりしないようになって
いる（っぽい）

というようなことだった。（っぽいって何だろう？）

とりあえず、その修行相手が待つ場所に行ってみよう。

少し進むと、開けた場所に出る。

そこに神の姿があった。

「あなたが神の分身体でしょうか？」

「そつだよ。これから20年間戦闘技術と生きていく術を教えていくね」

「そうですか、じゃあ・・・これからよろしくお願いいたします
『師匠』」

「師匠？」

「色々なことを教えてもらうのならそれ相応の敬意を表すべきだと思いますが・・・迷惑でしょうか？」

「迷惑ではないよ。少し驚いただけだから。」

「じゃあ早速、修行について説明するね。」

「まず修行内容は大まかに言って、『体術』『魔法』『知識』だよ。」

「午前中は魔法を午後からは、体術を教えるよ」

「ハイ！」

「じゃあ、明日に備えて今日は休もうか」

第1話（後書き）

最初に投稿したときと大幅に変更しました。

第二話（前書き）

今回会話ばかりです

第二話

私の前には神の分身（長いから『分神』と呼ばう）がいる。

「さて、魔法についての知識を今日は覚えてもらおうか。

魔法というのは術式という回路に魔力というエネルギーを流すことで発動する。」

魔法を使うためには術式の理解と魔力のコントロールの両方が必要となる」

「漫画に出てくる人々は簡単に使っているのに、現実はずいぶん大変なんですね」

「漫画の世界は魔力が満ちているからね、自分の身の回りにある力を扱うのは結構簡単なんだよ。」

「この世界の人だって君の世界にあるパソコンや携帯は存在しないから使えないのと同じようなものだよ」

「身近にない分理解し辛い・・・ということですか？」

「まあ、そんなものだね。」

術式は慣れてくれば一瞬で組み立てることが出来るし、予め組み立てておいて必要なときに発動させることも出来る」

「なるほど、なんとなくですが分かった気がします」

「次に魔力とは大気や火、水、人体、すべてのものに宿っているエネルギーのことだ。」

魔力を操るということはそれらのエネルギーを精神力で支配して従えるということだ」

「それらの魔力を術式に流して魔法を使うということですか？」

「そう、だからまず君には魔力を感じてもらうことから始める。」

まず私が君に魔力を流す」

そう言つと分神は手をこちらに向ける。

それと同時に何か暖かいものが流れてくる。

「どう？これが魔力だよ」

「何か暖かいです」

「じゃあ今度はそれが自分の内側にあることを自覚してゆっくりそれを引き出すんだ。」

それができたら次はそれを自由に操れるようにする」

この練習はお昼になるまで続いた。

その練習の成果が魔力を大体扱えるようになった。

第三話

私の前には神の分身（長いから『分神』と呼ばう）がいる。

「さて、魔法についての知識を今日は覚えてもらおうか。

魔法というのは術式という回路に魔力というエネルギーを流すことで発動する。

魔法を使うためには術式の理解と魔力のコントロールの両方が必要となる」

「漫画に出てくる人々は簡単に使っているのに、現実はずいぶん大変なんですね」

「漫画の世界は魔力が満ちているからね、自分の身の回りにある力を扱うのは結構簡単なんだよ。

この世界の人だって君の世界にあるパソコンや携帯は存在しないから使えないのと同じようなものだよ」

「身近にない分理解し辛い……ということですか？」

「まあ、そんなものだね。

術式は慣れてくれば一瞬で組み立てることが出来るし、予め組み立てておいて必要なときに発動させることも出来る」

「なるほど、なんとなくですが分かった気がします」

「次に魔力とは大気や火、水、人体、すべてのものに宿っているエネルギーのことだ。」

魔力を操るということはそれらのエネルギーを精神力で支配して従えるということだ」

「それらの魔力を術式に流して魔法を使うということですか？」

「そう、だからまず君には魔力を感じてもらうことから始める。」

まず私が君に魔力を流す」

そう言うのと分神は手をこちらに向ける。

それと同時に何か暖かいものが流れてくる。

「どう？これが魔力だよ」

「何か暖かいです」

「じゃあ今度はそれが自分の内側にあることを自覚してゆっくりそれを引き出すんだ。」

それができたら次はそれを自由に操れるようにする」

この練習はお昼になるまで続いた。

その練習の成果が魔力を大体扱えるようになった。

お昼ごはんを食べた後、私は再び分神との修行に望んでいる。

午後からは武術の修行となっている。

「よし、まずは準備運動からだ。」

3キロのマラソンと腹筋・背筋・腕立てをそれぞれ50回ずつ

「それって、準備運動の量じゃないですよ・・・」

「毎日鍛えれば、20年後には地面を割れるようになるよ」

「割れなくてもいいですよ」

「まあ、鍛えておくに越したことは無いから、とにかくやってきなさい」

~~~~~準備運動後~~~~~

疲れた、準備運動だけでもう体力がなくなった気がする。

「さて、最初に体術の選択をしてもらおう」

「体術に種類なんてあるんですか？」

「種類というか・・・攻撃と防御どちらを主体にするかだね」

「じゃあ、防御を主体にして覚えたいです。」

合気道みたいなのを・・・」

「分かったよ、合気道のように攻撃を受け流す技術を君には教えよう」

### 第三話（後書き）

次回で修行は終了です

私はあまり体術について詳しくないので上手くかけませんでした

## 第四話

私がこの世界に転生してから早くも20年が過ぎた。

今日で師匠——分神——ともお別れだ。

「さて、これから最後の修行を始める。

かかってきなさい」

S i d e   o u t

少年とその師が向かい合っている。

少年は師に向けて火の魔法を放つ。

師はその魔法に向けて水の魔法を放ち相殺すると、少年に向かって走り出す。

少年はそれを待ち構えていたかのように師に向かって蹴りを繰り出す。

その蹴りは師に当たるすれすれで交わされ虚しく空をきる。

そこに出来た大きな隙を師が見逃すはずもなく、結局いつものよう

に雷の魔法で止めを刺されるのだった。

S i d e 主人公

「また負けた。」

悔しい・・・結局最後まで一撃も入れられなかった」

最後だから、弟子として成長したところを見せたかったのに・・・

「気にすることは無いよ。」

ただの人間でこの私にあそこまで本気を出させる者は今までいなかった。

きつとこれから数百年は現れないだろう」

「気休めは辞めてください」

「本当だよ。」

あの蹴りはあと一瞬気づくのが遅かったら確実に当たっていただろう」

師匠の顔を見ると、そこにはいつものふざけた様子は無く真剣な顔があった。

（本当に私のこと認めてくれてるんだ・・・）

「これで修行はすべて終わった。」

これからはこの世界で好きに生きていくといいよ

「ハイ」

師匠の身体がだんだん透けてなくなっていく。もう、時間なんだ。

「後、これは私から弟子への餞別だよ。」

受け取ってくれないか？」

「これは？」

ヤバイ・・・目の前の景色がだんだん歪んできた。

「君ならこの魔法が何なのかきつと分かると思う。」

じゃあ、元気だね」

「ハイ、師匠」

涙が止まらなくなつて最後はほとんど涙声で返事をしていた。

そして師匠は完全に消えてしまった。



#### 第四話（後書き）

これで修行編？は終了しました。

最後の修行では主人公が弱く見えますが主人公かなり強いです。師匠が強すぎるんです。

『大きな隙』とありますが0・1秒の世界です。

## アンケート（前書き）

アンケートを行いたいと思います。

## アンケート

~~~~アンケート~~~~

1・主人公の名前

主人公の名前を考えてください

名字はシャレにならなければ何でもいいです

名前は日本人っぽいけどファンタジーでも使えそうな名前がいいです

(ナツみたいな)

2・これからの主人公の行動

A：ギルドを立ち上げる

B：フリーの魔道士として人助けをしながら各地を回る

C：その他

3：主人公の見た目

主人公の見た目を考えてください

髪・瞳の色、服装、顔立ち等を考えてください

ここから下に本文は存在しません（文字稼ぎ）

アンケート（後書き）

出来れば、希望に沿おうと思っています
出来るだけ意見を下さい

主人公設定 Part 1（前書き）

アンケートに答えていただいております。

参考にさせていただいた名前などを少し変えて作りました。

主人公設定 Part 1

プロフィール

名前 シン・ハラウオン

性別 男

見た目 18歳ぐらい

髪の色 白に黒のメッシュ

瞳の色 赤

容姿 特上のイケメン（10人中9・8人がイケメンと言

う）

魔法

結界魔法

障壁：外からの攻撃・侵入を防ぐ魔法

術者もしくは魔水晶を中心に半球・球の形に広がる
広がる範囲は術者が決められる

支援結界：結界に属性を付加させてある属性の威力を
増幅・減少させる

（例）水の属性の結界 火↓減少 水↓増幅

属性魔法

炎：炎を生じさせる魔法

基本的に何かを燃やしたりすることしか出来ない

水：近くにある水を操る魔法

氷も操ることが出来る

雨や霧などある程度なら天候も操れる

応用範囲が結構広い

風：風をおこして攻撃する（カマイタチ・旋風など）

風を利用して小さな声・音などをひろうことができる

地：地面にエネルギーを流し地面を変形させる（自分を中心に）

主に地形を変えて自分の有利な状況にするため

その性質上空を飛ぶ敵には効果が無い

木：木や花などの植物を育てる

主に特殊な効果のある植物を育てる

地面や水からエネルギーを吸い取り攻撃する

無属性：魔力のエネルギーをそのまま相手にぶつけるだけの魔法

属性の相性

炎<水<風<地<木<炎

無属性はどれとでも相性は普通

主人公設定 Part 2

転移魔法

2つの対になる魔水晶を繋いで離れた場所を繋ぐ魔法
(ドラ。もんのスピアポケットみたいなもの)

治癒魔法

細胞の活動を活性化させて傷の治りを速める魔法
その効果上毒や石化の治療には使えない

主人公は普段木の属性魔法で育てた薬草で
毒や石化の治療をしている

(分神の贈り物)

時間の流れる速さの違う異界(?) 2つ

1つ目：外での1時間が中での一週間になる魔法
(修行用)

2つ目：外での1年が中での1時間になる魔法
(保存用)

入り口は主人公が持つ魔水晶

（1つ目は金 2つ目は銀）

治癒魔法

1時間以内に負った怪我・状態異常を完治させる魔法

（24時間に一回（対象は1人）しか使えない）

第五話

分神と別れて10年がたった。

私は5年前にフィオーレ王国唯一の、魔道士ギルドと傭兵ギルドの両方の面を持つギルド『光の騎士団』を立ち上げた。

メンバーはマスターである私を含めて20人、

そのうちS級レベルの魔道士は7人だ。

S i d e o u t 人物紹介

は魔道士・は傭兵として活動

・ジオ・セイオリス

男 18歳

主に火の魔法を使う

アリスの恋人

・ユーリ・アリオト

女 17歳

ナイフなどの小さい？武器で戦う

ユートの双子の姉

・ユート・アリオト

男 17歳

剣や斧などの大きい武器で戦う

ユーリの双子の弟

・アリス・アクビア

女 19歳

主に風の魔法を使う

ジオの恋人

・ハイア・ナスラル

男 21歳

主に素手で戦う（武器の扱いも上手い）

・マナ・ファルカド

女 15歳

主に水の魔法を使う

S i d e シン

今日も、いつもどおり賑やかだなあ。

「マスター、この仕事行ってきます!!」

はいはい、気をつけてね。

「マスター!!! ジオとアリスが痴話喧嘩を始めました!」

痴話喧嘩をするなら家でやってくれ・・・

「マスター、依頼で街を破壊してしまいました・・・」

評議院からの苦情が増えるじゃないか・・・

「マスター、新しい書類です」

マスターって案外大変なんだな・・・

ギルドマスターとして5年やっているだけでこれだから、

後10年、20年したらどうなるんだろ？

私、不老不死なのに過労死しそうだよ・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7321x/>

FAIRY TAIL ～永遠の光～

2011年11月15日09時05分発行